

令和5年8月吉日

各位

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター
交流企画部会長 柿沼太郎

国際島嶼教育研究センター第232回研究会のご案内

国際島嶼教育研究センター第232回研究会を下記のとおり開催いたします。皆様方の多数のご参加を心よりお待ちしております。

記

日時：令和5年9月25日（月）16時30分～18時
会場：総合教育研究棟5階 国際島嶼教育研究センター会議室
（〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21-24）
中継：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室
（〒894-0026 鹿児島県奄美市名瀬港町15-1 奄美群島大島紬会館6階）
WEB：Zoom
参加費：無料（通信費は参加者負担）

奄美の海に暮らすヤドカリとその共生者に関する研究

吉川晟弘（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室）

【要旨】

本発表では、ヤドカリとその共生者の適応進化に関する知見を紹介する。ヤドカリと聞くと、オカヤドカリのような「陸に暮らすヤドカリ」を思い浮かべる人も多いだろう。しかし、陸上で暮らしているヤドカリはごく少数であり、ほとんどのヤドカリは海の中で暮らしている。これまで演者は、潮間帯を含む浅い海と水深200mよりも深い深海と呼ばれる海に暮らすヤドカリ、およびその共生者についての系統分類学や行動学的な研究を行ってきた。本発表で演者がこれまで行ってきた研究の成果、特に奄美群島を含む日本近海に生息する種についての知見を紹介することで、多くの人に「海に暮らすヤドカリ」の存在を広めたい。

ヤドカリのほとんどは、巻貝の貝殻を「家」として使う。しかし、その貝殻は既に死んでおり大きくならないため、ヤドカリは成長するためにはさらに大きな貝殻に引っ越さなければならない。特に海に暮らすヤドカリが使う貝殻には、イソギンチャク類や巻貝類などの複数の共生者が暮らしている。これら共生者はヤドカリが引っ越しを行うたびに関係が切れてしまうため、共生を続けることに特化した形態や行動を進化させている。本発表で演者がこれまで明らかにしてきたヤドカリと、その共生者の「貝殻を舞台とした適応進化」を紹介することで、「海に暮らすヤドカリ」を研究することの面白さを共有する。

【対面式でのご参加（要登録）】

新型コロナウイルス感染症の予防の観点から、ご自身の体調を十分お考えのうえ、ご参加ください。対面式でのご参加をご希望の場合は、下記の情報をメールまたは電話にて9月21日（木）までにお知らせください。

お名前（必須）：
お電話番号（必須）：
ご所属先：
ご住所：
メールアドレス：
メーリングリストへの登録の希望の有無：

初めてご参加いただく方で、今後、当センターの研究会やシンポジウム等の案内をご希望の方は「希望する」とお書きのうえ、メールアドレスも必ず記入してください。

【オンライン（Zoom）でのご参加（要登録）】

インターネット環境とパソコン、スマートフォン、タブレット等があれば、ご自宅やオフィスからご気軽にご視聴いただけます。通信費は参加者負担となります。

オンラインでのご参加をご希望の場合は、下記の情報をメールにて9月21日（木）までにご連絡ください。Zoomの視聴方法については、参加登録後に届く、登録確認メールをご覧ください。

お名前（必須）：
メールアドレス（必須）：
ご所属先：
ご住所：
メーリングリストへの登録の希望の有無：

初めてご参加いただく方で、今後、当センターの研究会やシンポジウム等の案内をご希望の方は「希望する」とお書きください。

【ご連絡先】

対面式（申込期限：9月21日（木））

センター会議室：shimaken@cpi.kagoshima-u.ac.jp または 099-285-7394（担当：井手元）
奄美分室：amamist@cpi.kagoshima-u.ac.jp または 0997-69-4852（担当：生）

オンライン（Zoom）（申込期限：9月21日（木））

yotsuka@cpi.kagoshima-u.ac.jp（担当：大塚）